子どもたちに安心と安全を届けるために

高橋 孝雄

慶應義塾大学医学部 小児科学教室

小児保健に関わる者の使命は、すべての子どもたちが、成長と発達のプロセスで直面する種々の困難を克服し、人として幸せな人生を手に入れることを手助けすることだと思います。

そのためには、胎児環境から始まって、育児環境、教育環境、社会環境など、子どもたちを育むあらゆる環境をより良い方向へと導くことが必要です。社会全体を見渡す広い視野から、社会的に弱い立場にある子どもたちやご家族のために力を発揮することが期待されています。

さて、安全と安心は子どもの健やかな成長、発達に必須のものであり、子どもたちに与えられるべき最低限の環境要件と言えます。しかし、安全、安心な医療について、医療を提供する側と受ける側では、そのイメージが異なるのではないのでしょうか。自然科学的な視点をもつ医療従事者、特に医師にとっては、安全、安心な医療のためには、生物学、医学として筋が通っていること、ガイドライン、添付文書に沿って標準的な診断や治療が行われていることが何より重要です。一方、患者さんやそのご家族にとっては、医療従事者への信頼感こそが最大の関心事ではないのでしょうか。

病気をはじめとして様々な困難に立ち向かう子どもたちやそのご家族に信頼感を与え、子どもたちに最善の医療環境を提供するために、私たちは具体的に何をすべきなのか考えてみたいと思います。